

2025年度 日本語教育学会秋季大会

2025年11月22日（土）・11月23日（日）

富山国際会議場（富山県富山市）

◆開会式 22日（土）13時 メインホール◆

会長挨拶：西口光一（公益社団法人日本語教育学会会長）

司 会：牛窪隆太（公益社団法人日本語教育学会大会委員長）

昨年の姫路大会から1年ぶりの対面の大会を迎えることができたいへんうれしく思います。

さて、出入国管理庁の調査によると、令和6年末現在における中長期在留外国人数は過去最多を更新し、約377万人に上りました。2019年に特定技能の制度が始まり、2027年には育成就労の制度が始まります。外国出身者を積極的に受け入れる制度が整ってきて、日本は「移民」の受け入れに舵を切った様相となっています。そして、日常生活の場でも、職場でも、外国出身者と接触したり、いっしょに仕事をするのがごく普通のことになってきています。

現在の日本語教育推進の各種の施策は、『外国人との共生の実現に向けたロードマップ』（以下、ロードマップとする）という中長期的なプランの中の4つの重点事項の第一事項で「円滑なコミュニケーションと社会参加のための日本語教育等の取り組み」に位置づけられて展開されています。しかし、忘れてはいけないのは、同プランの名称が「外国人との共生の実現に向けた」となっていることです。

振り返ってみると、2005年は、日本語教育研究者を含む外国出身者受入れの関係者の間では「多文化共生元年」と呼ばれていました。当時は、外国出身者のための日本語教育と多文化共生の推進は同時並行的に行うのが適当だという認識が関係者の間で共有されていました。しかし、日本語教育推進法が施行され、機関認定や日本語教員国家試験が実施されるようになった現在、ロードマップで「外国人との共生の実現に向けた」と謳われているにもかかわらず、現在要請されている日本語教育は「日本語教育×多文化共生」だという認識が日本語教育者の間でやや希薄になっているように思われます。

今大会では一般公開プログラムとして「共生社会と日本語教育―何のために日本語教育はあるべきか」が企画されています。現在、日本という地で起こっている大きな社会変動の中で、多文化共生も含めて広く日本語教育を捉え直そうという試みです。言うまでもありませんが、他に、パネルセッション、口頭発表、ポスター発表など多数のメニューが用意されています。この2日間の大会が皆さん一人ひとりにとって、豊かな交流と優れた研鑽の機会となることを祈っています。

公益社団法人日本語教育学会会長 西口光一

目 次

大会日程	1
一般公開プログラム	2
発表一覧：パネルセッション	3
発表一覧：口頭発表	5
発表一覧：ポスター発表	9
同時開催イベント	15
会場案内：会場への交通案内	24
会場案内：会場配置図	25

◆主催：公益社団法人日本語教育学会

◆大会参加費：【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】

会員 3,500 円

会員（学生証をお持ちの方） 2,000 円

会員でない方 5,000 円

【当日受付】一律 5,000 円

◆交流会参加費：【事前登録（先着 70 名）※お支払い時に手数料がかかります】一律 500 円

◆事前登録期間：2025 年 10 月 16 日（木）～ 11 月 12 日（水）

◆問合先：03-3262-4291/E-mail:taikai-office@nkg.or.jp（メールは前日まで）

今大会では、富山県及び富山市のコンベンション開催事業補助金の申請にあたり、参加者名簿の提出が必要となります。ご登録いただいた個人情報は、本補助金申請手続きのためのみに使用させていただきます。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

大会参加にあたり、手話通訳者・託児等の費用助成を希望する場合は、ウェブサイト上のご案内をご確認いただきまして、所定の期日までに申請をお願いいたします。

その他、なんらかの配慮を要する場合は、11 月 6 日までに上記問合先までご相談ください。座席の確保など可能な範囲で対応いたします。また、期日までにご相談がない場合は対応できませんのでご了承ください。

◆大会日程◆

11月22日(土)	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
有料プログラム				12:15-12:55 1階：101 *わかばさん	13:00-13:50 3階：メインホール 開会式 授賞式	14:00-15:30 2階：201・202、203・204 2階：特別会議室 3階：メインホール パネルセッション 第1部	15:45-17:15 2階：201・202 2階：203・204 2階：特別会議室 パネルセッション 第2部	17:30-18:30 1階：交流ギャラリー 交流会		
無料プログラム			10:00-12:00 3階：メインホール 一般公開プログラム (無料)			12:00-17:00 3階：ホワイエ 2 * 賛助団体会員出展ブース (書籍展示・団体紹介等) (無料)	14:00-15:30 3階：ホワイエ 1 * 交流ひろば 前半	15:45-17:15 3階：ホワイエ 1 * 交流ひろば 後半		

* 印のイベントの概要は、15 ～ 23 ページをご覧ください。

11月23日(日)	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
有料プログラム		9:30-12:00 2階：201・202・203・204 2階：特別会議室 3階：メインホール 口頭発表 午前の部 (各発表 30分)	12:10-12:50 2階：201 *国際連携委員会 2階：202 *日本語教育学会 2階：203 *調査研究推進セミナー	12:40-14:10 3階：ホワイエ 1 ポスター発表 第2部	13:30-16:00 2階：201・202・203・204 2階：特別会議室 3階：メインホール 口頭発表 午後の部 (各発表 30分)	14:30-16:00 3階：ホワイエ 1 ポスター発表 第3部				
無料プログラム			8:45-15:00 3階：ホワイエ 2 * 賛助団体会員出展ブース (書籍展示・団体紹介等) (無料)	8:45-14:00 1階：エントランスホール 受付						

* 無料でご参加いただけます。

シンポジウム

共生社会と日本語教育

—何のために日本語教育はあるべきか—

11月22日（土）10:00～12:00 3階 メインホール

外国人住民の増加と多様化から「共生社会」が進むなか、政府は人口減少や労働力不足への対応として、入管法改正や多文化共生推進プランの策定、2027年から始まる育成就労制度の導入など、さまざまな制度整備を進めています。

しかし、こうした国による制度設計の中で、私たち日本語教育関係者は、「これからの共生社会における日本語教育の役割」について十分に議論してきたでしょうか。

今こそ、日本語教育が共生社会の構築にどのような役割を果たし得るのかを改めて考え、社会課題の解決に寄与する可能性を見つめ直す必要があります。

本シンポジウムでは、日本の人口動向、外国人集住都市の取り組み、そして当事者の経験を手がかりに、これからの共生社会における日本語教育の役割と今後の方向性について考えていきます。

パネリスト：

現在の日本とこれからの日本—外国人数の変化から—

是川夕氏

（国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長）

浜松市日本語学習支援事業のあゆみとこれから

—外国人集住都市の実践から—

内山夕輝氏

（公益財団法人浜松国際交流協会 主幹）

私の「ライフ」と日本語そして「これからの外国人」と日本語

山口クリセルダ氏

（富山アジア経済技術協同組合職員 通訳・生活指導担当）

これからの共生社会で、日本語教育は何ができるのか

神吉宇一氏

（武蔵野大学学外学修推進センター センター長／グローバル学部 教授）

司会：

栗又由利子（株きぼう国際外語学院）

パネルセッション

第1部 [14:00 ~ 15:30 (90分)]

第1会場

2階 多目的会議室 201・202
司会：齋藤ひろみ
(東京学芸大学)

①

多文化多言語の子どもの公正な
教育を支えることばの力の評価
—「ことばの力のものさし」の妥当
性と活用の検討—

櫻井千穂 (大阪大学)
佐野愛子 (立命館大学)
野口裕之 (名古屋大学名誉教授)
小島祥美 (東京外国語大学)
中石ゆうこ (県立広島大学)

第2会場

2階 多目的会議室 203・204
司会：阿久澤弘陽
(京都大学)

③

日本語教育実習で実習生は何を
どのように学ぶのか—実習生の教
案・教室談話・意識面の変容の総合
的分析—

柳田直美 (早稲田大学)
三好優花 (筑波大学)
張曦冉 (日本たばこ産業)
張瀟尹 (国立国語研究所)

第2部 [15:45 ~ 17:15 (90分)]

第1会場

2階 多目的会議室 201・202
司会：大船ちさと
(早稲田大学)

②

共生学の視点から捉える日本
語・教育の課題—他者性と特権性
にまつわるオートエスノグラフィー
をもとに—

中井好男 (大阪大学)
中山亜紀子 (広島大学)
高智子 (日本国際協力センター)

第2会場

2階 多目的会議室 203・204
司会：小林ミナ
(早稲田大学)

④

「留学生のための初任者研修」
の課題と今後の展望—日本語教
育振興協会における実践を基に—

保坂敏子 (日本大学)
佐久間みのり (横浜デザイン学院)
森下明子 (岡山外語学院)
山本弘子 (カイ日本語スクール)

パネルセッション

第1部 [14:00 ~ 15:30 (90分)]

第3会場

2階 特別会議室
司会：ボイクマン総子
(東京大学)

⑤

日本語学習者の聴解の実態と聴
解教育への応用

野田尚史 (日本大学)
任ジェヒ (立教大学)
中尾有岐 (東亜大学)
奥野由紀子 (東京都立大学)

第4会場

3階 メインホール
司会：水野晴美
(国際日本語普及協会)

⑦

「日本語教育の参照枠」をカリ
キュラムに具体化する研修の在
り方—地域日本語教育人材の育成を
目指して—

金田智子 (学習院大学)
嶋田和子 (アクラス日本語教育研究所)
島田めぐみ (日本大学)
内山夕輝 (浜松国際交流協会)

第2部 [15:45 ~ 17:15 (90分)]

第3会場

2階 特別会議室
司会：中井陽子
(東京外国語大学)

⑥

スピーチレベル教育の再構築に
向けて—「適切な日本語」から「自
己表現の日本語」へ—

岡崎渉 (鳴門教育大学)
金孝珍 (フリーランス)
生天目知美 (東京海洋大学)
アドゥアヨムアヘコ希佳子 (宝塚大学)

口頭発表 午前の部〔9:30～12:00（各 30 分）〕

	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場
	2 階 多目的会議室 201 司会：井上次夫 (京都先端科学大学)	2 階 多目的会議室 202 司会：中川康弘 (中央大学)	2 階 多目的会議室 203 司会：大島弥生 (立命館大学)
9:30～10:00	① 中国語母語学習者にとっての 和製漢語の意味的透明性の 判定基準の策定 黄叢叢 (明治大学) 小森和子 (同) 松下達彦 (国立国語研究所)	⑤ 当該発表は発表者 の都合により中止 となりました。	⑨ 縦断的なコーパスを用いた中 国人日本語学習者による多義 動詞の習得―「名詞+とる」の 産出を例として― 李強 (広島大学大学院生)
10:10～10:40	② 教師と生成 AI の協働による 日本語教材リライト手法の研 究―語彙・文法制約下で学習者 の興味を喚起するテキスト作成 を目指して― 甘利実乃 (東京外国語大学院生)	⑥ 言語間の境界線を乗り越える ための対話の実践の広がり― かつて「対話の実践」の対象者 であった複言語話者が実践者にな るとき― 李思儀 (早稲田大学大学院生)	⑩ 上級日本語学習者を対象とし たディクトグロスタスクのデザ イン―学習者の主体的な気づき に焦点を当てて― 松澤咲陽子 (広島大学大学院生)
10:50～11:20	③ AI を用いた語彙のダイナミッ ク・アセスメントの効果―診断 的語彙テストを通じた語彙の定 着― 松井佑樹 (早稲田大学大学院生)	⑦ 自治体における「やさしい日 本語」の普及実態とその課題 ―大阪府の 33 市自治体の調査を もとに― 張斌 (大阪大学大学院生)	⑪ 中国語を母語とする日本語運 用者のスマートフォンでの日 本語入力方式の使用実態と 認知プロセスについての考察 佐藤淳子 (北海道大学)
11:30～12:00	④ 語彙先習と運筆指導の段階 的導入が初級非漢字系学習 者の漢字書字能力に与える効 果 三枝桜花 (拓殖大学大学院生)	⑧ 接触場面における人間関係構 築の停滞―話題選択と展開にみ る関係構築意欲の変容― 莫冠シン (早稲田大学大学院生)	⑫ 聴解テストにおけるメモ取り行 動の分析―中国における日本語 学習者を対象として― 金軒辰 (目白大学大学院生)

口頭発表 午前の部〔9:30～12:00（各30分）〕

	第4会場	第5会場	第6会場
	2階 多目的会議室 204 司会：衣川隆生 （日本女子大学）	2階 特別会議室 司会：杉本香 （大阪大谷大学）	3階 メインホール 司会：福島青史 （早稲田大学）
9:30～10:00	⑬ 戦前の日本語教育における「重念」 阿久津智（拓殖大学）	⑰ Can-do 記述を用いた言語能力自己評価アンケートの3年間の推移—大学正規留学生を対象に— 岡葉子（帝京大学） 藤森弘子（同） 初鹿野阿れ（同） 古川嘉子（同）	
10:10～10:40	⑭ 外国につながる子どもに関わる保育者の言語環境の選択 當銘美菜（目白大学）	⑱ 在中国日本語教育実践におけるトランスランゲージング—北京市内大学での教室活動を事例に— 小幡佳菜絵（北京大学）	⑳ 地方公共団体における地域日本語教育の体制づくりの現状と課題 御館久里恵（鳥取大学）
10:50～11:20	⑮ 日本で子育てを行う外国人労働者の日本語使用と課題—日本社会及び日本人との関わりから— 飯田朋子（筑波大学）	⑲ ワークキャリアの中断を経験した日本語教師の語り—キャリア自律に向けての示唆— 高井かおり（東亜大学） 松尾憲暁（岐阜大学） 山本晋也（周南公立大学）	㉑ 日本語能力試験とCEFRレベルの対応付け—調査の設計と実施— 大隅敦子（国際交流基金） 小野口航（同）
11:30～12:00	⑯ 地域日本語教室において地元住民の講師と日本語教育専門の大学院生が協働する意味—地元住民の講師への聞き取り調査から— 古田梨乃（新潟大学） 平田友香（国際教養大学） 宮淑（モンテレイ大学）	㉒ 進路指導業務のチーム日本語教育—教師の不安や負担感を軽減するために— 濱川祐紀代（日本女子大学） 倉沢郁子（関西外国語大学）	㉓ スピーキングテスト STAR のルーブリックは妥当か—状況対応タスクと意見述ベタスクのルーブリックの改訂— ボイクマン総子（東京大学） 根本愛子（同） 松下達彦（国立国語研究所）

口頭発表 午後の部〔13:30～16:00（各30分）〕

	第1会場	第2会場	第3会場
	2階 多目的会議室 201 司会：建石始 （神戸女学院大学）	2階 多目的会議室 202 司会：野田尚史 （日本大学）	2階 多目的会議室 203 司会：杜長俊 （北海道大学）
13:30～14:00	②④ 日本語母語話者と中国語母語話者の日本語会話における他者修復ストラテジーの実態—会話分析アプローチに基づいて— 李文婕（東京都立大学大学院生）	②⑧ 第二外国語としての日本語学習の継続と学習環境の関係—ロシア語を母語とする日本語学習者の語りから— 松尾恵理沙（筑波大学大学院生）	③② 授業外ライティング支援におけるモデルテキストの活用とその効果—中国の日本語専攻学生を対象とした実証的研究— 孫芳（東北大学大学院生）
14:10～14:40	②⑤ 話題の馴染み深さが中国人日本語学習者の口頭産出に与える影響 徐天（北京語言大学大学院生）	②⑨ 在日非母語話者日本語教師の認知変容とその影響要因—中国出身教師C氏の事例から— 李咏月（京都大学大学院生） 穆瀾（同）	③③ 15年を経て再考する「戦争体験者インタビュー実践」の言語教育的価値—CEFRの観点からの振り返り— 近藤有美（名古屋外国語大学） 川崎加奈子（長崎外国語大学）
14:50～15:20	②⑥ 日本語教育学分野の大学院生による学会誌論文要旨作成の困難点—要旨経験別の執筆過程を比較して— 朱雅蘭（一橋大学大学院生）	③⑩ ブラジルにおける日本語教師のキャリア継続をめぐる要因—公教育以外に所属する4名の語りを手がかりに— Mukai Felipe Naotto（筑波大学大学院生）	③④ メタバース教室における多読・多聴の実践方法の検討 吉川達（立命館大学）
15:30～16:00	②⑦ 人文系大学院研究発表における質問の特徴—質問の種類に着目して— 劉瑞（広島大学大学院生）	③⑪ 断りの日本語・クメール語対照研究—誘いに対する断り発話を中心に— ジム・シアンリー（宇都宮大学大学院生）	③⑤ 外国ルーツの子どものための日本語と国語の統合学習用デジタル教材の試作と試行調査 小野塚若菜（東京外国語大学） 森下みゆき（ベネッセ教育総合研究所） 佐藤淳子（北海道大学）

口頭発表 午後の部〔13:30～16:00（各30分）〕

	第4会場	第5会場	第6会場
	2階 多目的会議室 204 司会：石澤徹 （東京外国語大学）	2階 特別会議室 司会：森篤嗣 （武庫川女子大学）	3階 メインホール 司会：住田哲郎 （京都精華大学）
13:30～14:00	③⑥ 生成AIを用いた語彙問題の自動設計と意識調査の分析—日本語教育現場におけるパーソナライズ学習の提案— 佐古恵里香（流通科学大学）	④⑩ 構成漢字に焦点を当てた二字漢字熟語の学習効果 萩原章子（国際教養大学） 本多由美子（国立国語研究所） 松下達彦（同）	④③ 日本語非母語話者による「人間味のある音声」の印象評価—非流暢性を含んだ合成音声による検討— 新井潤（関西学院大学） 波多野博顕（筑波大学） モクタリ明子（富山県立大学）
14:10～14:40	③⑦ EJU問題文における理工系学術共通語彙の抽出—学術共通語彙との比較から— 杉山暦（札幌大学） 久保田育美（明石工業高等専門学校）	④① 講義聴解過程におけるトップダウン処理とボトムアップ処理 阪上彩子（奈良教育大学）	④④ 生成AIには初級レベルの作文は書けない 李在鎬（早稲田大学） 三谷彩華（江戸川大学） 毛利貴美（岡山大学）
14:50～15:20	③⑧ 中級学習者が感じる成長と困難の要因—「書く・話す」におけるCan-do自己評価分析を基に— 井手友里子（南山大学） 土居美有紀（同） 安井朱美（名古屋外国語大学）	④② I-JASにおける日本語学習者の「他動詞+テアル」の使用傾向とその要因 新谷知佳（大阪大学）	
15:30～16:00	③⑨ ビジネス日本語Can-do記述の妥当性に関する質的研究—外国人社員の自己評価と日本人上司の他者評価の比較を通して— 二瓶知子（国際交流基金） 古川智樹（関西大学） 池田聖子（日本大学）		

ポスター発表

第1部〔10:50～12:20（90分）〕

3 階 ホワイエ 1		
① 外食業特定人材のための教材開発の試みー技能測定試験への対応としてー 飯嶋美知子（北海道情報大学） 金庭香理（札幌国際大学）	② うつ病を経験した技能実習生と日本語学習の意味ーウェルビーイングの視点からー Hoang Ngoc Bich Tran（岡山大学大学院生）	③ 生成 AI を用いた看護師を目指す人のための国家試験解説作成の試み 山元一晃（金城学院大学） 稲田朋晃（十文字学園女子大学）
④ 教え方はどう変わったのか？インドネシア中等教育教師が語るカリキュラム改訂後の自身の変化 古内綾子（明治大学） 二瓶知子（国際交流基金）	⑤ 日本語学習場面の教室談話からみる「移動する子ども」のことばの力ー「対象・他者・自己」の観点に基づく変容の記述ー 鎌田真凜（筑波大学大学院生）	⑥ 日本語を学ぶ児童生徒のための言語活動の捉え方と実践ー「JSL バンドスケール」を用いた授業案の提案ー 川上郁雄（早稲田大学名誉教授） 塩田紀子（白鵬女子高等学校）
⑦ 外国人生徒の在籍する教室における実践とその学校的価値ースキャフォールディングの拡張をみすえてー 南浦涼介（広島大学） 伊藤晃一（千葉県立佐倉南高等学校） 中川祐治（大正大学）	⑧ レポート作成課題におけるアカデミック・ライティング能力移行期の特徴 安高紀子（明治大学） 生天目知美（東京海洋大学）	⑨ 中国人日本語学習者の動機づけの変化とそれに関わる要因ー高校から大学院の進路決定期まで日本語学習を継続している1人を事例にー 沈韻（立命館大学大学院生）

ポスター発表

第1部〔10:50～12:20（90分）〕

3階 ホワイエ1

⑩

学習者レベルに応じた教師
発話の構造変化—発話の分類
に基づく機能比較—

立部文崇（周南公立大学）
藤田裕一郎（朝日大学）

⑪

学習者の実践知にもとづく発
音教材開発—ボトムアップ型
アプローチの可能性—

木下直子（早稲田大学）
伊藤茉莉奈（東京経済大学）
大戸雄太郎（東京国際大学）
劉羅麟（早稲田大学）
劉佳琦（復旦大学）

⑫

留学生の抱く理想の友人像
とは—大学でのアンケート調査
をもとに—

小坂凜（京都産業大学）
浅津嘉之（関西学院大学）

⑬

実習生はどのように「日本
語活動」をデザインしたか

古川敦子（津田塾大学）
渋谷実希（同）

⑭

協働学習としての学生参加
型作文ルーブリック作成の
効果—中国人日本語学習者への
インタビューから—

呂博一（広島大学大学院生）

⑮

日本語クラスの会話パート
ナーが活動時に感じる難し
さ

濱田美和（富山大学）
田中信之（同）
中河和子（トヤマ・ヤポニカ）
水田佳歩（富山大学）

⑯

日本語学校におけるプロジェ
クト型学習の実践とその意義
—担当教師へのインタビューか
らの考察—

久保田文子（京進ランゲージア
カデミー）

ポスター発表

第2部〔12:40～14:10（90分）〕

3階 ホワイエ1

⑰

留学生に対する日本語学習
カウンセリングの意義と課
題 4—カウンセラーへのインタ
ビューの分析から—

堀井恵子（元武蔵野大学）
高橋桂子（武蔵野大学）

⑱

ベトナム人日本語教師にお
ける漢越語活用の認識と教
育実践—教師ビリーフと環境に
注目して—

上本洋平（YUKI 日本語センター）

⑲

海外日本語教師研修でジェ
ンダーを扱う意義—言語教育
観に着目して—

山岸愛美（国際交流基金）

⑳

高等教育機関に勤めるカン
ボジア人日本語教師の悩み
—学生の現状から見てきたもの
—

細井駿吾（東京国際大学）

㉑

日本語習得によるスクリプト
獲得と園適応過程—外国人幼
児3名の日本語支援を通して—

石垣尚子（東京学芸大学大学院
生）

㉒

大学留学中の中国語を母語
とする上級日本語学習者の
発話における誤用の変化—
滞日期間による—考察—

中原郷子（長崎外国語大学）
安田真由美（同）

㉓

短期交換留学生のニーズに
即した日本語学習支援—大
学専門科目受講の足場かけとし
て—

鈴木秀明（目白大学）
鈴木美穂（同）

㉔

日本国内の日本語学校で学
ぶ日本語学習者の感情制御
ストラテジー—中国人学習者・
ベトナム人学習者・ロシア人学
習者の比較から—

加藤伸彦（京都外国語大学）
前野文康（日本国際工科専門学
校）

㉕

「自分のことば」をつくる多
言語多文化ワークショップ

松井かおり（大同大学）

ポスター発表

第2部〔12:40～14:10（90分）〕

3階 ホワイエ1

②6

プロフィシェンシーを伸ばす
ナレーション活動

早野香代（三重大学）

②7

自然会話データを生かした
授業デザインの検討ー話し合
い活動の実践をもとにー宮永愛子（山口大学）
西村史子（ワイカト大学）
佐藤淳子（北海道大学）
鹿嶋恵（崇城大学）

②8

話し合いの雰囲気は誰が創
るのかースクリプト分析活動か
ら検討する学習者の視点と役割ー藤浦五月（武蔵野大学）
宇野聖子（関西外国語大学）

②9

外国人介護福祉士の困難を
「言語能力」に帰責しないた
めにー受け入れ側の変容可能性
を考えるー水戸貴久（立命館アジア太平洋
大学）

③0

買い物場面における外国人
住民の読みのプロセスと困
難点ーリテラシー実践の同行調
査からー

神美妃（早稲田大学大学院生）

③1

“ビジネス文書検定”を参考
にした「カタカナ文字起こし
活動」導入の試みと展望ー
多様な背景の学部生を対象にー

渡邊真（名古屋経済大学）

③2

市民リテラシーにおける「市
民」とはだれかー『内外教育』
連載記事「多様な教育現場で育て
上げる市民リテラシー」における
登場人物の考察ー永岡悦子（流通経済大学）
中野玲子（Kaigoと日本語つむぎの会）
芹川佳子（東京大学）
山下千聖（早稲田大学大学院生）
奥村恵子（明治学院大学）
齊藤真美（日越大学）

ポスター発表

第3部〔14:30～16:00（90分）〕

3階 ホワイエ1

③③

地域日本語教育の体制づくり事業におけるオンライン日本語講座の試みーコロナ禍以降5年間の成果と今後の位置づけー

中川歩美（兵庫県国際交流協会）

③④

外国人児童生徒急増地域での持続可能な包括的支援体制の構築ー正統的周辺参加により教え合い、学び合う実践共同体ー

萩原幸司（城西国際大学）
林千賀（同）
高柳真理（同）
佐藤明子（同）
本城美和子（同）

③⑤

外国につながる子どもの来日後の日本語学習への意識の変容ー学齢期に来日した日系ペルー人のライフストーリーからー

貞安薫（お茶の水女子大学大学院生）

③⑥

KPT手法を用いた振り返りの有用性ー外国にルーツのある子どもたちの地域学習支援現場におけるスタッフの声からー

加藤みゆき（東京国際大学）

③⑦

専門科目履修を支える専門教員と日本語教員の連携ー授業報告と返信の分析を通じた情報発信の在り方の検討ー

河住有希子（日本工業大学）
藤田恵（日本国際教育支援協会）

③⑧

大学学部進学留学生を対象とした「専門語入門」指導の試みー自律的な用法学習をめざしてー

小宮千鶴子（元早稲田大学）

③⑨

日本語学校教員が負担感を持つ管理運営業務の特徴と要因ーインタビュー調査に見る「進路指導」と「時間割作成」を中心にー

古川嘉子（帝京大学）
中川健司（横浜国立大学）
平山允子（日本学生支援機構）
安中浩美（アン・ランゲージ・スクール）

④⑩

看護・保育・学校教育分野の子育て期女性に関する文献レビューー日本語教師研究における課題を探るー

杉本香（大阪大谷大学）
大河内瞳（桃山学院大学）
菅智穂（立命館大学）

④⑪

質的研究は何を明らかにするのかー学会誌論文の調査からー

八木真奈美（東京女子大学）

ポスター発表

第3部〔14:30～16:00（90分）〕

3階 ホワイエ1

④②

中学校数学・理科教科書の
章末問題における表現の分
析—予備教育課程の日本語教材
設計に向けて—

下村朱有美（大阪大学）
日比伊奈穂（同）

④③

大規模コーパスの頻度から
みた日本語教育用語彙リス
トの評価

新井智大（明治大学大学院生）
岩下智彦（電気通信大学大学院生）
松井佑樹（早稲田大学大学院生）
松下達彦（国立国語研究所）

④④

日本語教育機関／セクション
における生成 AI の積極的な
活用と制限に関する検討—あ
る大学キャンパスの日本語セクシ
ョンによる「指針」作成プロセスの可
視化と共有—

伴野崇生（慶應義塾大学）
甲斐晶子（青山学院大学）
白頭宏美（慶應義塾大学）
西山陽子（同）・山崎哲（同）
杉原由美（同）

④⑤

依頼場面における言いさし
の使用に関する縦断的デー
タの考察—中国語・タイ語を
母語とする日本語学習者を例に
—

Niramol Rawinan（東京都立
大学大学院生）
烏日哲（国立国語研究所）

④⑥

韓国語を母語とする日本語
学習者の二字漢語サ変動詞
習得における母語の影響—
理解・産出面から複数の母語を
対象とした比較検討—

幸田萌夏（東京都立大学大学院
生）

賛助団体会員出展ブース [活動紹介・書籍紹介・教材紹介等]

[11月22日(土) 12:00～17:00, 23日(日) 8:45～15:00]

会場：3階 ホワイエ2

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には賛助会員という会員種別があり、全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO団体等、54団体が入会しています。(2025年9月現在)

賛助会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材のラインアップ展示等を行います。最新の書籍等を手にとって見られる絶好の機会かと思えます。

また、賛助会員と大会参加者との交流、参加者間のネットワーク作りの促進、日本語教育及び関連領域の情報提供、情報交流、広報等の場としてもお役立てください。

ブースは土日を通して設置していますので、会期中は何度でも、どうぞお気軽に足をお運びください。

わかばさんいらっしやい

[11月22日(土) 12:15～12:55]

会場：1階 会議室 101

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育を始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方、学会参加が初めての方などです。チャレンジ支援委員会は、わかばさんがスムーズに大会に参加できるようにサポートします。

「わかばさんいらっしやい」では、まず、大会で行われる各種発表の形式、聞く発表の選び方、大会の楽しみ方など大会参加のガイダンスを行います。その後、わかばさん同士の情報交換やネットワーク作りのための交流会を開催します。事前申し込みを推奨していますが、人数に余裕があれば当日の飛び込み参加も受け付けます。ぜひご参加ください。わかばさんのはじめの一步をサポートします！

交流ひろば

〔11月22日(土) 第1部 14:00～15:30／第2部 15:45～17:15〕

会場：3階 ホワイエ1

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

支部活動委員会では、「人をつなぎ、社会を作る」という理念体系に掲げられた使命と「日本語教育の情報交流を促進する」という事業方針を実現するために、「交流ひろば」を開催します。「交流ひろば」では、出展者の教育実践や研究の紹介・共有、参加者との情報・意見交換が行われます。審査を経た発表ではありませんが、同じ興味や問題意識を持つ者同士がネットワークを拡げることを目的とした企画です。

今大会より、これまで「地域発信企画」として別途行っていた、大会開催地での日本語教育の取り組みや成果の発信を、この「交流ひろば」の中に『地域枠』として位置づけました。開催地富山を含む北陸からは、地域に根ざした活動、教室運営、人材育成、教材開発等が報告されます。その他、介護等の就業支援、育成就労制度への対応、外国につながる子どもたちの学習や入試の問題等に関する取り組み、生成AIの活用、教師のメンタルヘルス、インクルージョン、日本語点字使用ニーズへの対応といった今日的課題や実践結果の報告等、非常に多様な出展が予定されています。是非ご参加ください。活発な交流が生まれることを期待しています。

* 出展の詳細は、18～23ページをご覧ください。

調査研究推進セミナー

「地域社会における調査研究をどのように行うか」

—2023年度『日本語教育』論文賞受賞論文執筆者に聞く、研究計画のヒント—

〔11月23日(日) 12:10～12:50〕

会場：2階 多目的会議室 203

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

調査研究推進セミナーでは、調査研究活動の推進と研究倫理の質の向上を目的としています。今年度は、2023年度『日本語教育』論文賞受賞論文執筆者の一人である山本晋也氏（周南公立大学・准教授）を講師にお迎えし、受賞論文での事例を基に、地域社会における調査研究の計画と方法のヒント、研究倫理についてお話しいたします。

当日のスケジュールは、以下の通りです。

- ・ 12:10～12:40 趣旨説明・講師講演
- ・ 12:40～12:50 質疑応答

セミナーへの事前申込は不要ですが、大会への参加申込者を対象としています。当日は来場先着順（90名）です。皆様のご参加をお待ちしています。

「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」説明・相談会

〔11月23日（日）12:10～12:50〕

会場：2階 多目的会議室 201

主催：公益社団法人日本語教育学会 国際連携委員会

公益社団法人日本語教育学会国際連携委員会では、一般社団法人尚友倶楽部の助成を受け日本語教育グローバル人材奨励プログラムを実施しています。このプログラムは、若手の研究者・実践者が海外の協力者とともに調査や実践を行うことで、情報共有の促進と日本語教育の意義と課題に関する相互理解を深めてもらうことがねらいです。

これまで、多くの若手の研究者・実践者が助成を受け、さまざまな国・地域で調査や実践を行いました。活動終了後も、各国の方々との交流を深めたり、さらなる実践の展開をしている受給者の方々も多くいらっしゃいます。日本の若い世代が国内志向であるという指摘がある中、本プログラムを通して、海外の日本語教育に触れてもらうことは重要だと考えており、学部生・大学院生・若手教員等を対象に本プログラムのことを知っていただきたいと考えています。

説明会では、本プログラムに応募を考えている方、海外での調査や実践に興味のある方、またはそのような方々を指導している教員のみなさまにお越しいただき、本プログラムの概要および過去の活動紹介を共有したいと考えています。

2026年度以降、日本語教育学会の運営はどう変わる？

— 第3次中期計画策定の現状と今後 —

〔11月23日（日）12:10～12:50〕

会場：2階 多目的会議室 202

主催：公益社団法人日本語教育学会

2025年度春季大会でご紹介したように、日本語教育学会（以下、本学会）の「第3次中期計画」骨子案は、「学会の理念の実現を促進し、持続可能な運営体制を構築すること」を目的としてまとめたものです。

現在、理事・委員・事務局を中心に具体的な検討を進めており、今年度末までに「第3次中期計画」を策定する予定です。

この計画に関係して、大会の開催方式の変更や委員会の統合・再編など、学会運営のあり方そのものを大きく見直す議論が進んでいます。これは、会員のみなさんだけでなく本学会に関心を寄せてくださる多くの関係者にも関わる重要な内容です。

そこで、2025年度秋季大会において、会長・副会長による対面での説明会を開催します。当日は、中期計画策定状況の中間報告に加えて、今後のスケジュールや運営方針もお話しします。質疑応答や意見交換の時間も設けますので、ぜひご参加いただき、皆さまのご意見をお聞かせください。

前半【14:00～15:30】

①地域枠 日本語学校の地域での多文化共生への取り組み

宮田妙子 (富山国際学院)

富山国際学院は1993年の開校以来、地域とのつながりを大切にしています。ボランティア活動への参加、防災への取り組み、やさしい日本語での富山県警との連携、大学生との交流、多文化共生畑での野菜作り等、地域における多文化共生への取り組みについて発表し、地域で多文化共生を広めていく上での日本語学校の果たす役割について皆さんと一緒に考えたいと思います。

②地域枠 動画教材「Lesson For Useful Expression in Japanese」の紹介

石橋美香 (国際大学), 倉品さやか (同), 竹内明弘 (同)

私たちは初級レベル以上を対象とした動画教材を作成しました。本教材は、留学生が大学に入学してから卒業するまでの学生生活において直面するさまざまな場面における日本人との自然な会話や表現を学ぶためのものです。動画教材の紹介後、本教材の活用について意見交換をしたいと考えています。ぜひお気軽にお越しください。

③地域枠 新潟県魚沼市の地域日本語モデル教室の試み—県内の日本語教室空白地域の解消を目指して—

古田梨乃 (新潟大学)

外国人散在新潟地域における日本語教育を実践しながら、その課題と可能性について研究しています。他の地域の実践や課題を共有いただき、地域日本語教育の拡充のためにどうすればよいか意見交換ができれば幸いです。興味のある方はぜひお越しください。

④地域枠 生活分野の日本語教育の在り方と教師の専門性を考える—富山での2006年から現在までの地域日本語教育実践と人材育成を元に—

中河和子 (トヤマ・ヤポニカ), 神初奈津子 (同), 松岡裕見子 (同), 要門美規 (同), 家城香織 (日本語教室 in 黒部)

生活分野の日本語教育やその人材育成の在り方を、今こそしっかり議論しませんか。2006年から富山で続けている生活分野の日本語教育(左円・右円のシステム)の実践について紹介し、他県の実践者と比較・検討をしたいと思っています。その中で全国のモデルとなる実践はあり得るのか意見交換し、さらにそれを支える人材育成の在り方についても議論したいと思っています。

⑤【実践紹介】五行詩ではじめる創作活動—かんたん、たのしい、対話生まれる日本語表現—

小村志保美 (コミュニケーション学院), 小松麻美 (神戸芸術工科大学), 林李早 (東日本国際大学), 丸山亜希子 (滋賀県立能登川高等学校)

私たちは、日本語教育の現場で創作活動を実践しています。今回はその中から、五行詩を作る活動を紹介しながら、どうして創作活動をしているのかお話しします。楽しくて簡単で対話にもつながる活動です。実際に五行詩を作る活動も体験していただき、意見交換や交流ができればと思っています。ぜひ足をお運びください。

⑥ JCN 研修【講師育成コース】修了後、私たちはどうなった?

析丸華緒 (国際医療福祉大学), 平山允子 (日本学生支援機構), 惟任将彦 (大阪YMCA学院), 小坂凜 (京都産業大学)

今、文科省委託の現職日本語教師研修が行われています。研修後、修了者はどこでどうしているのでしょうか。研修成果は活かされているでしょうか。研修は終わってからが大事です。私たちはそこを確かめたくて、修了者(自分たち)の「その後」(研修後)を追っています。私たちの「その後」を共有し、現職者研修の今までとこれからを皆様と議論したいです!

⑦日本語学校教員が評価実践を改善するためには…?

富並美希 (中央工学校附属日本語学校), 平山允子 (日本学生支援機構)

日本語教師の皆さん、特に認定日本語教育機関を目指している日本語学校の皆さん、学習成果の評価をどうやって実践・改善していますか? 私たちは四苦八苦、悪戦苦闘しています! 自組織の中だけでなく広くいろいろな機関の方々と実践や意見の交換ができれば有益なのではと思っています。ぜひ皆さんお集まりください。

⑧中学校における外国につながる子どもの教科学習と高校入試

佐野真理子 (大阪公立大学大学院生)

外国につながる子どもが入学する学校では、教育を通じて子どもの成長を育んでいます。しかし、なかには日本語や日本語による教科学習の難しさ、日本の高校入試制度の理解不足から、学習が疎かになってしまう子どももいます。学習理解と入試へ向けた取り組みやモチベーションの上げ方等について皆さんと共に考え、共有したいと思っています。

⑨日本語教育研究者が自身のパラダイムを知るための質問項目—パラダイム判定チャートの開発にむけて—

香月裕介（神戸学院大学）、伊藤翼斗（京都工芸繊維大学）、大河内 瞳（桃山学院大学）

私たちは、日本語教育分野で研究を行うためのパラダイム判定チャートの開発をめざして研究を進めています。まずは、パラダイムを判定するための質問項目と、判定結果の説明を作りました。質問に回答して結果説明をお読みいただき、ご意見を伺えれば幸いです。自分のパラダイムについて考えてみたい方、ぜひお越しください。

⑩生成 AI によるフィードバックを実装した「JWriter」—新しい時代の日本語アカデミック・ライティングの学習と教育支援—

李在鎬（早稲田大学）、伊集院郁子（東京外国語大学）

私たちは生成 AI の教育利用を目指し、研究を行っているグループです。今回、生成 AI による自動フィードバックを提供するウェブシステムを開発しました。新しい時代の日本語アカデミック・ライティングの学習と教育を支援するツールになると考えています。このツールの可能性と課題について皆さんと意見交換したいと考えています。

⑪地域日本語教育専門人材養成講座の紹介—外国人散在地域における3年間の実践から見えたこと—

内海由美子（山形大学）、松岡洋子（岩手大学）、嶋ちはる（国際教養大学）、仁科浩美（山形大学）、今泉智子（同）

岩手大学・国際教養大学・山形大学の教員5名が中心となって「地域日本語教育専門人材養成講座」を3期にわたり実施しました。講座のカリキュラム、実施方法、受講者の様子などを紹介し、地域で日本語教育人材を育成する意義は何か、他の外国人散在地域に導入できるかどうかなどを、参加者のみなさんと意見交換し、考えたいと思います。

⑫公立高校における日本語教育を通じた社会的自立の育成—学校設定教科「日本語」とプロジェクト活動による生徒の成長プロセス—

和田さとみ（岐阜県立東濃高等学校）、小島祥美（東京外国語大学）

東濃高等学校は、11カ国にルーツをもつ多文化多言語の生徒が全校生徒の6割を占める岐阜県の公立高校です（2025年4月時点）。「ことばの力のものさし」（文部科学省2025）を全国に先駆けて活用し、高校卒業後の社会的自立を目指した日本語教育の実践を2022年から行っています。これまでの授業実践と重ねながら生徒の成長を紹介します。

⑬介護分野の特定技能外国人に向けた学習支援を考える—実践共有と学習スケジュール作成—

丸山真貴子（目白大学）、木下謙朗（龍谷大学）

私たちは、「介護の日本語教育」に取り組んでいるグループです。特定技能制度の導入以降、現場で外国人介護福祉職の活躍の場が広がるにつれ、学習支援がますます重要になる中、「何を・どの順番で・どう教えるか」と悩む支援者も多くいます。現場での実践や工夫を共有しながら、柔軟な対応のあり方を一緒に考えていきたいと思っています。関心のある方はぜひお越しください。

⑭地域日本語教育で自己表現中心の学習はどう広められるか—『わたにほ』の活用支援から考える—

萬浪絵理（NPO法人国際活動市民中心）、西山陽子（同）

私たちは、生活者のための自己表現中心日本語教材『わたしをつたえるにほんご CINGA 版』を無償で公開しており、ダウンロード数は1200件を越えました。自治体による日本語教育でも利用されています。当日は、教材利用者のアンケート結果と考察をお伝えします。教材の理念に沿った使い方を普及するためにはどうすればよいか、ご意見を聞かせてください。

⑮協働で作る『文法コロケーションハンドブックE』ブログ版

中俣尚己（大阪大学）、清水由貴子（聖心女子大学）、建石始（神戸女学院大学）、王静怡（大阪大学大学院生）

コーパスを使って、文法形式とよく使う実質語を調べ上げた『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』。そのwebでの拡大版を全国の大学院生や修了生と協働で作し、ブログで公開しています。当日は、成果物を見ていただくとともに、執筆に興味を持っていただける方とも交流したいと考えています。

⑯短歌で学ぶ日本語—「私」を紡ぐ三十一文字—

佐藤一央（NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会）、寺澤昌子（同）

私たちは外国ルーツの子どもたちが短歌という詩形を通して日本語を学んでいく実践をしています。五七五七七、三十一文字で自己表現をする創作活動です。日本語教育に短歌・俳句・詩・物語といった創作活動を取り入れている方々と成果や課題等と一緒に考えていきたいと思っています。ぜひお越しください。

①⑦中級教科書における質問文を考えてみようー初級教科書と比較してー

長谷川由香（拓殖大学）、堀恵子（東洋大学）、木林理恵（敬和学園大学）、世良時子（上智大学）、大隅紀子（東京大学）

私たちは学習者の質問力育成を最終目標とし、日本語教科書に登場する質問文の形式や意味機能について調査を進めています。今回は中級教科書に見られる質問文の傾向を、初級の結果と比較しながら報告します。さらに、教育現場における効果的な指導方法や教材活用のあり方について、皆さまと意見交換を行いたいと思います。

①⑧留学生との協働による日本語点字音声ガイドの多言語展開ー点字使用の当事者がもつ思いー

藤田恵（日本国際教育支援協会）、河住有希子（日本工業大学）

私たちは点字使用者が独学で日本語点字が学べるように、点字使用の留学生と一緒に多言語の動画を作成しています。協力者へのインタビュー調査では、本プロジェクトへの参画に対する当事者自身の意義が語られました。特別なニーズのある日本語学習者の現況や当事者と協働することの意義について、一緒に話してみませんか。

①⑨インクルージョンは大学日本語教育でいかに実現できるか

浅津嘉之（関西学院大学）

学習者間の対話を重視する活動型授業で、「参加」はどのように定義や評価ができるでしょうか。学習者がどのように活動していれば、「参加している」と判断しますか？いろいろな背景、個性、特性を持つ人々を日本語教師はどのようにインクルードできるのか、みなさまと考えられればと思っています。

②⑩発音に対する考え方とその指導について話そうーBEO モデルと中国での調査結果を共有しながらー

劉羅麟（早稲田大学）

みなさんは発音についてどう考えていますか。普段の授業でどのように指導していますか。この交流ひろばでは、中国 37 大学の日本語教師 100 名に対するアンケート調査の結果を共有しつつ、そのベースとなる BEO（理念・経験・意見）モデルについても紹介します。それを踏まえ、自身がこれまで行ってきた発音指導とその根本にある教育観について話し合いましょう。

②⑪漢字教育をめぐる対話と仲間づくりーJSL 漢字学習研究会の活動紹介ー

二瓶知子（国際交流基金日本語国際センター）、濱川祐紀代（日本女子大学）

私たちは漢字指導や漢字学習について語り合う仲間を作り、自身の研究や実践を語れる場として JSL 漢字学習研究会を運営しています。発足から 20 年、国内外に会員がいます。漢字指導や漢字学習に関心のある皆さんの興味や課題をお聞きし、新たなつながりを広げていきたいと考えています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

後半【15：45～17：15】

②②生成 AI の活用による日本語授業の効率化と教育の質的向上

竹内彩乃（東京語学学校）、森 薫（同）

私たちは生成 AI の活用によって「教師の負担軽減」と「授業の質向上」を両立させるための実践を行いました。具体的な実践報告を共有し、同じ課題について皆様とお話したいと考えております。興味のある方はぜひお越しください。

②③自律的なキャリア形成を支える CP(キャリア・ポートフォリオ) チャートの試案—学部留学生を対象として—

トンプソン美恵子（東京大学）、鈴木伸子（同志社大学）

報告者は、研究課題「日本型雇用の学習と内省に基づく自律的な留学生向けキャリア教育の開発・評価」（JSPS 科研費 JP4K04015）の一環として、学部留学生が大学時代の実績・活動をふり返り、通底する価値観や職業観を認識して将来の展望を見出すための教材開発を行っています。ビジネス日本語教育や就職活動支援など、留学生のキャリア形成に関わっている皆様と意見交換ができればと思います。

②④外国につながるのある生徒の高校進学を支援するサイバーシステム構築

猪瀬泰美（NHK学園高等学校）、志村ゆかり（津田塾大学）

外国ルーツの子どもの日本語学習時間数の限界を、リアルな教材と WEB コンテンツのコラボによって補強し、過疎地の生徒の自立学習にもつなげたいと考えています。現在、総合教科書『中学生のにほんご』の学習を補強するスキット動画、e ラーニング、AI チャットによる自由会話を軸に開発中です。試用結果を報告し、今後どのようなコンテンツの開発や取り組みが必要か意見交換をしたいと思います。

②⑤継続する学びと日本語教師のキャリア—4 年間の読書会実践報告—

秋田美帆（岡山大学）、牛窪隆太（東洋大学）、徳田淳子（ICJ グローバル）、末松大貴（名古屋学院大学）

私たちは、非母語話者日本語教師のキャリア支援について共同研究を行っているグループです。研究課題遂行のため、月 1 回キャリア教育、教師教育、質的研究に関する専門書や学術論文を用いた読書会を行っています。読書会に興味がある方、読んでいる本のジャンルが面白そうだった方、ぜひお気軽にお越しください。

②⑥聴解に必要な「技術」とは？技術を身につけるための聴解ウェブ教材の開発

日比伊奈穂（大阪大学）、阪上彩子（奈良教育大学）

私たちは、日本語学習者ためのウェブ聴解教材を作っています。このウェブ聴解教材は、具体的な聴解技術を示して、聞く練習を行っています。初級者のためのコンビニ、コーヒーショップ教材から上級者の講義聴解教材があります。ぜひ、教材について、興味のある方はぜひお越しください。

②⑦保見中学校 読書プログラム

野入はる香（豊田市立保見中学校）、松永紗季（同）、浦地弘典（同）、櫻井千穂（大阪大学大学院）

豊田市立保見中学校は、多文化多言語の生徒が多く在籍する学校です。生徒たちの読み書きの力を育むため、取り出し授業や学校全体で読書プログラムに取り組んでいます。様々なフィールドで活動されている皆様と多読について考えていきたいです。興味のある方は、ぜひお越しください。

②⑧小中学校児童生徒に対する「オンライン日本語指導」

門田翔（大阪府教育庁）、胡精吾（同）、櫻井千穂（大阪大学大学院）

大阪府内の小中学校では、近年日本語指導が必要な児童生徒数が増加し、少数散在化が進んでいます。そのような中、大阪府教育庁では府内公立小中学校等（政令市を除く）在籍の児童生徒を対象に「オンライン日本語指導」を 2022 年度から実施してきました。「オンライン日本語指導」の実践内容を紹介しますので、さまざまな方と意見交換ができますと幸いです。

②⑨学習者による映像素材の理解度をどのように把握するか—設定に関するスキーマに着目した実践例—

清水美帆（帝京大学）

映像素材を授業で用いる際、短いものや日本語が容易なものでも、学習者の内容理解には差が見られます。その理由を探るため、「設定」に関する既有知識（スキーマ）の有無が理解に与える影響を調べています。本研究と授業実践例を紹介し、理解度の把握方法や授業設計の工夫について意見交換します。ぜひお越しください。

③⑩ 日本語で表現することを楽しむ創作クラスの実践報告

鈴木綾乃（横浜市立大学）

出展者は2020年度より、大学の留学生を対象に、『旅の絵本』（安野光雅、1977年）を用いて学生がオリジナルの物語を作る授業実践を行っています。本実践の共有を通して、日本語教育の現場において物語の創作を取り入れることで学べることや、書く活動において生成AIをどのように活用できるかについて議論したいと思います。

③⑪ ICT時代に適した日本語教育教材研究のフレームワークの提案—年少者日本語教育を対象に—

梅村知未（早稲田大学大学院生）

現在、日本語指導が必要なJSL児童生徒が増加していますが、私は、対応する教材やカリキュラムの整備、教員数の不足に問題意識を感じています。特にICTを含む教材の整備が課題と考え、まずは年少者日本語教育の教材に関する研究を体系的に整理した上で、ICT時代に適した教材研究フレームワークを提案する研究を進めています。多くの方々と意見交換ができればありがたいです。

③⑫ 就労者に対する日本語教師が抱く課題とその解決に向けて

松尾花穂（海外産業人材育成協会）、杉山充（同）、常次亨介（同）

私たちは、文部科学省委託（2023年度は文化庁委託）現職日本語教師研修プログラム普及事業として「就労者に対する日本語教師【初任】研修」を実施してきました。就労者に対する日本語教師が抱える問題意識を共有し、課題解決のために何ができるかについて、皆様と意見交換をしたいと考えています。

③⑬ 「育成就労生の日本語学習。どう支援する？」—教室での学びと、企業・地域との連携を考える—

栗又由利子（ぎょう国際外語学院）、油川美和（地域日本語教育コーディネーター）、神初奈津子（トヤマ・ヤポニカ）、西山陽子（NPO法人国際活動市民中心）、松岡純子（独立行政法人国際協力機構）、品田潤子（BPC研修サービス）、中河和子（トヤマ・ヤポニカ）

育成就労制度が2027年より始まります。育成就労制度には、就労生への日本語要件が明記される予定です。留学生ではない彼らの日本語教育をどのように担っていくのか、どんなカリキュラムで行っていくのか、地域とはどうつながるべきかなどを一緒に考えたいと思っています。興味のある方はぜひお越しください。

③⑭ 心をととのえる—教師の悩みやストレス、はなしてみませんか—

倉沢郁子（関西外国語大学）、濱川祐紀代（日本女子大学）

教育現場で孤軍奮闘を繰り返す私たち。心にあるモヤモヤや悩みなどを話す＝放すことで、心をととのえていきませんか。「日本語教育に関わる教職員のためのメンタルヘルス研究会」で同った日本語教師の悩みも共有します。ぜひお立ち寄りください。

③⑮ 「今の私がしていること」「今の私でいること」をともに考える—オートエスノグラフィー・フェローの交流から—

嶋津百代（関西大学）、中井好男（大阪大学）、佐野香織（武蔵野大学）

私たちはオートエスノグラフィーを通して交流するフェロー（仲間）です。はじめてオートエスノグラフィーについて知った方、やってみたいと思っている方など、多様なみなさんとともに「聴く」ことを大切に、対話しながら行っている交流の機会をご紹介します。興味のある方はぜひお越しください。

③⑯ 国語辞典を活用した自律的な語彙習得—アナログがもたらす刺激と広がり—

萩原秀樹（インターカルト日本語学校）

「楽しく語彙を習得してほしい」日本語教師なら誰しもこう願うと同時に、悩みも尽きないことでしょう。しかし、デジタル辞書に物足りなさを感じたこともあると思います。その打破を模索した結果、アナログのブック型国語辞典を用いた「辞書引き学習」に着目しました。すると、学習者がなんと生き生きすることか。ご体感ください。

③⑰ 生活の日本語を学ぶ「いそどり日本語オンラインコース」サイトを主教材とした初学者向け地域オンライン日本語教室の実施—Can-doを到達目標とした反転授業の試み—

笠井陽介（国際交流基金関西国際センター）、宮内文音（同）、熊野七絵（同）、岸俊之（公益財団法人大阪国際交流センター）

出展者は2025年4月より反転授業形式の初学者向け地域オンライン日本語教室を実施しています。学習者は「いそどり日本語オンラインコース」で事前学習を行い、授業ではCan-do達成を目指した会話練習を行っています。この取り組みを紹介し、地域オンライン教室における授業設計や学習支援などについて意見交換したいと思います。

③⑧はじめまして、「自動車整備の日本語教育研究会」です！

日暮康晴（長崎大学）

2025 年 7 月に「自動車整備の日本語教育研究会」を新しく立ち上げました。自動車整備×日本語教育の可能性について、教育、研究など様々な観点から意見交換ができればと思います。ぜひぜひお立ち寄りください！

③⑨これからの日本語多読支援の支援を考える

高橋 亘（目白大学）

私は日本語多読支援の導入を考えている教師やボランティアの方や、既に支援を開始した皆さんがどのように日本語多読を円滑に導入、継続できるかという日本語多読支援の支援について考えています。これまで行ったインターネットラジオ放送などの実践を紹介した上で、これからの日本語多読支援の支援のあり方を考えたいと思います。

④⑩高等学校における外国人生徒等を対象とする「ことばの教育」プログラムー「日本語」と「国語科」等の教科の学習を接続するー

齋藤ひろみ（東京学芸大学）、青木由香（荒井学園高岡向陵高等学校）、佐屋麻利子（神奈川県立相模向陽館高等学校）、谷啓子（東京学芸大学）、原瑞穂（同）、米本和弘（同）

発表者らは多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための日本語プログラムを開発していますが、同時に、取り出し授業として実施する国語科などの教科との関係も含めて、「ことばの教育」を包括的に設計する必要性を感じています。この点について皆さんと議論したいと思います。

④⑪日本語研修旅行の「はがき新聞」作成に関する授業実践の紹介

辻本 桜子（大阪教育大学）

出展者は、日本語学習者の研修旅行に際して「はがき新聞」というはがき大の用紙を利用した新聞作成の授業実践を行いました。本出展では、その一連の授業について紹介します。また、出展時には学習者が作成した作品の展示も行います。「はがき新聞」を活用した授業実践に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお立ち寄りください。

④⑫日本語教師の管理運営業務に役立つ Excel ツールの紹介

平山允子（日本学生支援機構）、中川健司（横浜国立大学）、古川嘉子（帝京大学）、浦由実（元アン・ランゲージ・スクール）、安中浩美（アン・ランゲージ・スクール）

私たちの過去の調査で、「時間割・授業シフト作成」「進学・就職指導」が日本語教師の負担になっていることがわかりました。そこで、Excel で時間割作成補助ツールと進学指導データ管理ツールを作りました。これらは日本語教師の負担軽減や留学生の自律的で適切な進路選択に寄与すると考えます。ツールを見たい方、触りたい方、ぜひお越しください！

●会場周辺地図

所在地：富山県富山市大手町1番2号



●公共交通機関

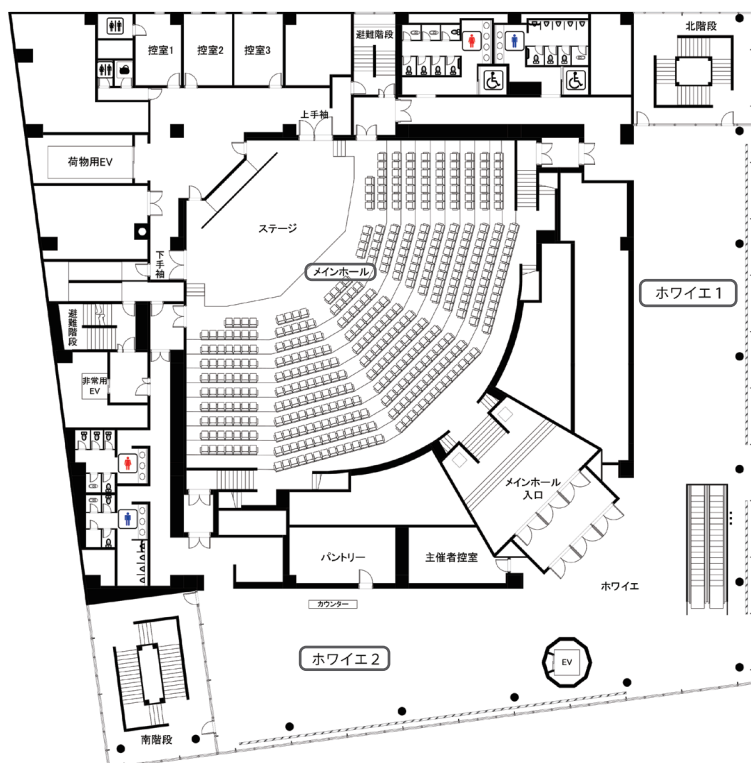
バス（約5分）・・・「城址公園前」下車 徒歩3分
 徒歩（約15分）・・・城址大通りを南方向 約1.2km
 市内電車（環状線）（約7分）・・・「国際会議場前」下車

●駐車場

富山国際会議場の地下に民営有料駐車場があります。
 （24時間営業／国際会議場の専用駐車場ではありません。）
 正面玄関前ロータリーは乗降専用です。駐停車できませんのでご注意ください。

●富山国際会議場の URL

<https://www.ticc.co.jp/>



メインホール

22 日 (土)
一般公開プログラム (10:00-12:00)
開会式・授賞式 (13:00-13:50)
パネルセッション⑦(14:00-15:30)
23 日 (日)
口頭発表 < 第6会場 >

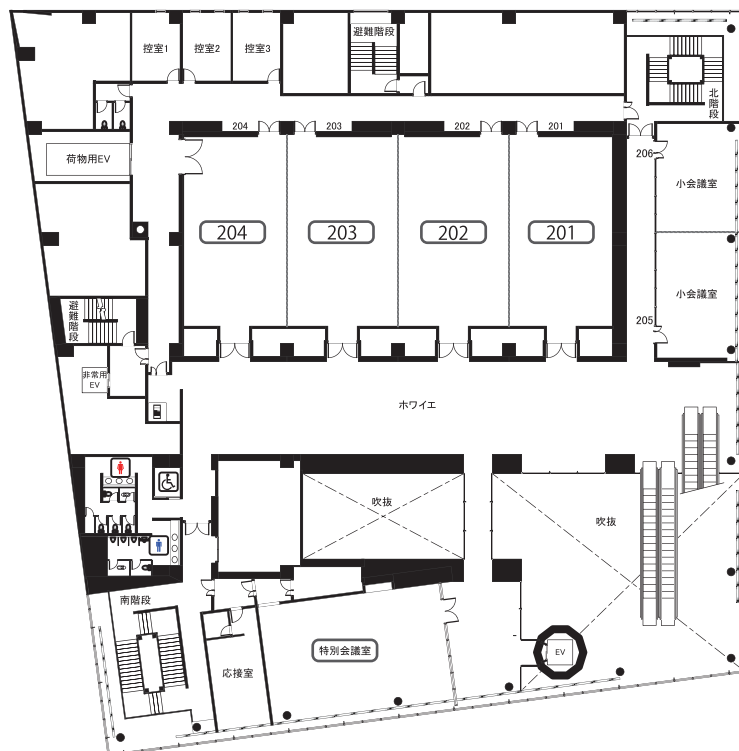
ホワイエ1

22 日 (土)
交流ひろば (14:00-17:15)
23 日 (日)
ポスター発表 (10:50-16:00)

ホワイエ2

賛助団体会員出展ブース
22 日 (土) 12:00-17:00
23 日 (日) 8:45-15:00

3 階



201・202

22 日 (土)
パネルセッション①②

203・204

22 日 (土)
パネルセッション③④

201

23 日 (日)
口頭発表 < 第1会場 >
国際連携委員会説明会 (12:10-12:50)

202

23 日 (日)
口頭発表 < 第2会場 >
日本語教育学会説明会 (12:10-12:50)

203

23 日 (日)
口頭発表 < 第3会場 >
調査研究推進セミナー (12:10-12:50)

204

23 日 (日)
口頭発表 < 第4会場 >

特別会議室

22 日 (土)
パネルセッション⑤⑥
23 日 (日)
口頭発表 < 第5会場 >

小会議室 205

大会本部

小会議室 206

大会委員会控室

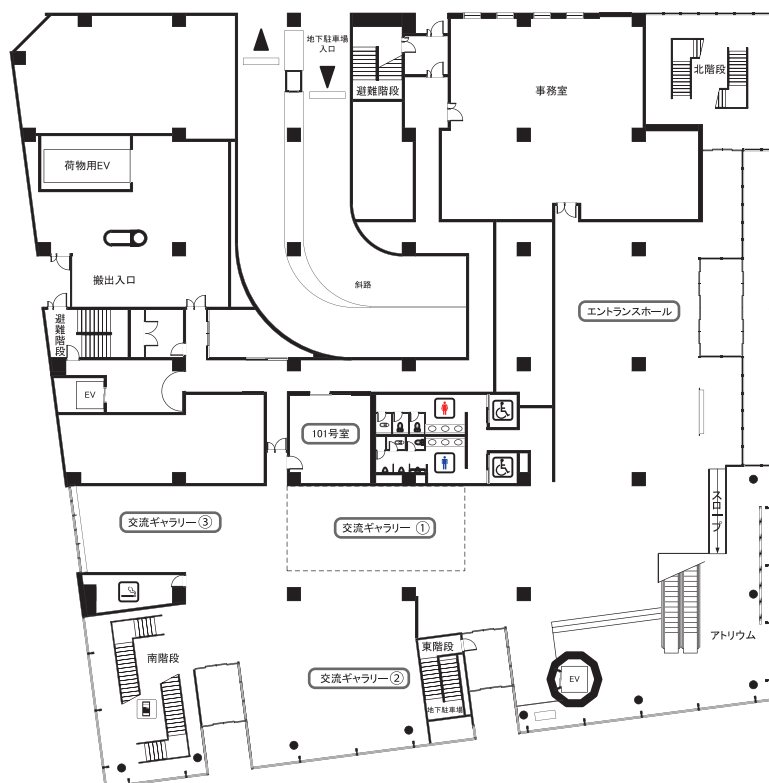
控室 3

審査・運営協力員控室

応接室

役員控室

2 階



エントランスホール

受付

交流ギャラリー③

クローク

22日(土) 10:00-19:00

23日(日) 8:45-16:00

交流ギャラリー①②

交流会 22日(土) 17:30-18:30

101号室

22日(土) 12:15-12:55

わかばさんいっしょい

1階